



学会ホームページ <http://jasce.jp>

084号(2026年1月31日)

目次

年頭のご挨拶

日本協同教育学会 副会長挨拶
次期大会開催地からのご案内
『協同と教育』『協同教育実践論文集』への投稿募集中
学会ワークショップについて
各地の研究会・勉強会

年頭のご挨拶

日本協同教育学会 会長 小松誠和

少し遅いご挨拶になりますが、新年あけましておめでとうございます。旧年中、会員の皆様におかれましては学会活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2026年は干支でいうと「丙午(ひのえうま)」の年です。陰陽五行で丙は「火の陽」、午も「火」に属し、情熱と変革を象徴します。火は、ものを照らし、温め、時に形を変える力を持ちます。教育もまた、知を灯し、人を育て、社会を変える営みです。

振り返れば、本学会は「巳」年であった昨年秋に理事会体制が大きく入れ替わり、新しい体制がスタートしています。まさに蛇が脱皮を繰り返しながら成長するように、本学会も新しい姿へと成長する段階にあります。しかし、蛇が脱皮しても

「蛇らしさ」を失わないように、私たちも学会の本質を守りながら変革を進めることが肝心です。

現在、理事会／委員会は、前期からの引き継ぎ作業や、持続可能な学会運営改善に向けた検討を行なっています。今期から就任いただいた新理事／新委員からも活発に意見をいただきながら活動に取り組んでいます。

今年は「火」の力を学会活動に活かし、さらに会員の皆様のお力もお借りしながら、協同教育の理念をさらに深め、広げる一年にしていきたく存じます。皆様におかれましては本学会へのご意見・ご提案などございましたらぜひお聞かせください。どうぞよろしくお願ひいたします。

日本協同教育学会 副会長挨拶

日本協同教育学会 副会長・編集委員長 鮫島輝美

この度、副会長ならびに編集委員長を拝命いたしました、関西医科大学の鮫島輝美と申します。副会長として、会長である小松先生を支えながら、学会の持続的な発展に寄与したいと考えております。私自身は、2012年に久留米大学教授、安永悟先生とのご縁をいただき、協同学習を看護学の講義・演習・実習へと取り入れてまいりました。また、ベーシック、アドバンスを経て、今年度

マスターを修了できました。さらに看護学においては、緒方先生に、看護アプローチにおいては、鹿内先生にご指導いただき、ここまで研鑽を重ねることができました。

今後は、協同学習の理論と実践を往還する支援を大切にしたいと考えております。具体的には、授業形態に応じた協同学習の実践例を増やし、協同学習理論との対話の場とする「協同と教育」の編集活動を通じて貢献してまいります。これまで学会を支えてこられた先生がたにご教授いただきながら、学会のより良い発展のために活動してまいります。よろしくお願ひいたします。

次期大会開催地からのご案内

2026年度の日本協同教育学会第22回大会は、「『自立と協同の文化』についてあらためて問う」をテーマに、2026年9月11日(金)～13日(日)にわたり、大東市立市民会館(大阪府大東市)で開催いたします。

12日(土)および13日(日)の本大会に先立ち、11日(金)はプレ大会として、同市内の学校での研究授業を公開し、会員のみなさまに参加いただけるよう計画しています。大東市では、2009年度より「学び合い、学び続ける明日の市民の育成」という基本理念のもと、「学び合う学校園づくり」を通して、自立し協同する力を育むべく、協同学習の理論を重

JASCE

学会ワークショップ 今後の予定（判明分）

＜ベーシック＞

2026年3月7日(土)、8日(日) 【主催】

会場：創価大学(東京都八王子市)

講師：久末俊幸・関田一彦

＜アドバンス＞

2026年3月7日(土)、8日(日) 【主催】

会場：創価大学(東京都八王子市)

講師：久保田秀明

最新情報、詳細情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>)からお願いいたします。

(研修委員会)

んじた授業づくりが展開されてきました。当初より、日本協同教育学会の設立にご尽力された先生方をはじめとした本学会の会員が市内各校の先生方と連携し、協同学習の考えに基づいた授業が継続的に推し進められてきました。

そして、2026年度は18年目になります。自立し協同する力の育成のもと、協同の意義、技能、価値が、大東市の教育の文化として醸成されたかについて振り返ることができる機会になればと考えております。その上で、協同学習の理論に基づく確かな教育活動を持続的に行うにあたっての条件、ならびに今後の展望について、深く考える機会にしたいと思います。みなさまのご参加を楽しみしております。

日本協同教育学会第22回大会実行委員会 委員長 西口利文

『協同と教育』『協同教育実践論文集』への投稿募集中

『協同と教育』および『協同教育

実践論文集』への投稿を随時受け付けています。『協同と教育』『協同教育実践論文集』の新規投稿はWebフォームからの投稿となります。投稿フォーム、執筆・投稿規程は <https://jasce.jp/1091format.php> にあります。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。なお『協同教育実践論文集』については、投稿者が執筆のサポートを受けることを希望する場合、学会員の中から世話を立てることができます。みなさまの投稿や問い合わせをお待ちしています。

各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本研究会に参加してくださる皆様と共に協同学習の実践を深め

合っていけるよう、今年も企画・運営に尽力してまいります。よろしくお願い申し上げます。

◇第61回は、2026年1月24日(土)13時30分～17時30分、場所はグランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab」アクティブラジオ、テーマは「協同学習を初めて体験する学生に『ジグソー』を用いた授業を考える」で開催しました。開催報告は次号でさせていただきます。

◇【今後の開催予定】第62回は、2026年3月21日(土)、13時30分～17時30分、場所はグランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab」アクティブラジオです。テーマは「学生のレディネスをふまえた協同学習の実践を考える」です。ご案内は2月に配信させていただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。文責：研究会代表 緒方巧（連絡先：t-ogata@baika.ac.jp）

(中四国地域)

協同学習研究会(岡山)

◇第4回の研究会を12月20日(土)にオンラインにて開催しました。今回は『協同学習を支えるアセスメントと評価』



の第4章「教師作成テスト」を講読しました。本章の前半では、教師がテストを作成する際の一般的なガイドラインを解説しており、主に「客観テスト(多肢選択法、正誤法、組み合わせ法、短答法、問題面法)」と「論文体テスト」を取り上げています。いつ

JASCE

ぼう、後半では、協同学習の方法論を援用したテストの方法として、①GIG (グループ・個人・グループ)、②グループで毎週テスト・個人で最終テスト、③グループ討論テスト、④TGT (チーム・ゲーム・トーナメント) の4つを紹介しています。4つの方法について、Johnsonらがどの校種のどの学年の子どもたちを想定しているのか、明確な言及はありません。また個々の方法を実践する手続は緻密ですが煩瑣に見えます。教師はもとより、子どもたちがこの方法に習熟する時間が必要です。日本の学校でそんなことが可能だらうか…という疑問を共有したとき、実は「テスト直し」の時間こそ、協的に学ぶ最良の場面ではないか気付きました。教師が一問一答的に解説して書き取らせる「テスト直し」ではなく、子どもたちが仲間とともに「解き直し」に取り組むことで、「誤答」や「正答」の理由と根拠を共有し、間違いから学ぶ取組を重ねるのです。「テスト」を「学習材」として活用するのです。また「評定につなげるテスト」と「形成的評価に生かすテスト」との区別も重要です。私たちは「平常点」や「日ごろの頑張り」にとらわれすぎるあまり、定期テストや単元末テストの点を全て「評定」につなげてしまい、「解き直しを通して理解を深め、定着し、学力を高める」ことをなおざりにしていいでしょうか。このようなことを考え直す、とても貴重な機会になりました。

次回(第5回)は2026年2月28日(土)10時～12時です。新たに参加希望の方は高旗(takahata@okayama-u.ac.jp)までメールでお

知らせください。既にご参加頂いたことのある方は連絡不要です。出入り自由です。テキストを事前に読んでおくことが参加の条件です。次回は第5章「作文とプレゼンテーション」と第6章「プロジェクト」の2章分を読み解きます(第6章はわずか4頁なのです)。テキストはAmazon経由での入手が便利です(上記の書籍の画像にリンクを張っています)。皆様のご参加をお待ちしています。連絡先:高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)



(全地域)

全国看図アプローチ研究会

特色のある看図アプローチ研究会を2つ紹介します。ひとつは「ふじた看図アプローチ研究会(ふじかん)」です。もう28回も続いている研究会です。多機関に所属する方が参加する多職種連携型の研究会を継続しています。看図アプローチを大学授業で体験し、その良さを実感した大学生も参加しています。LTDを活用した毎回の看図アプローチ理論学習も成果をあげています。今回はビジュアルテキストにアート作品を取り入れたり、動画を

活用したりする等のチャレンジをしています。

もうひとつは足寄町立螺湾小学校の看図アプローチ研究会です。螺湾小学校は小規模複式校です。これまで実践報告がなかったフィールドへ出かけて行っての研究会になりました。足寄町は日本で一番面積の広い町です。香川県の2/3に相当する面積になるそうです。その広さゆえ螺湾にたどり着くのも楽しい「旅」になりました。札幌から帯広まで特急で3時間。さらに帯広から足寄までは、なんと「路線バス」で3時間です。北海道の広さを実感しつつ、本当に元気いっぱいの児童のみなさん・熱気あふれる先生方に囲まれて幸せな看図アプローチ研究会をしてきました。2つの研究会報告をお読みいただければ幸いです。

(以上、文責:鹿内信善)

1. 「ふじかん」第28回研究会報告(2025.12.18開催)

今回は、対面参加6名(教員5名、大学生1名)、Web参加5名を含む計11名が参加し、ハイブリッド形式で開催しました。前半では、看図アプローチの理論を学び合い、後半では看図アプローチを体験しました。

1. 看図アプローチの理論の学び合い

テキスト『見方・考え方を育てる授業デザイン—看図アプローチの理論と実践—』第1章第1節「看図アプローチの定義」をLTD話し合い学習法に沿って学び合いました。

話し合いで、看図アプローチの基盤となる「見る」と「発問」を、授業設計としてどのように具体化

JASCE

するかが中心課題として共有されました。とくに、ビジュアルテキストや観察など、「見る」ことが中心となる場面では、「よく見てください」という指示だけでは学習者は視点を定められず、具体的な手がかりが必要であることが確認されました。また、「真剣にやりなさい」と促すだけでは動機づけにつながりにくく、「見ることの楽しさ」が立ち上がる仕掛けとして授業に組み込む重要性が話題となりました。そこで、①「見る」を具体的な手がかりとして支援すること、②学習者の主体性を損なわない発問設計により、発見の喜びを学びへ接続すること、③未経験者にも伝わるよう概念の定義・説明を工夫することの3点が確認されました。今後は、学習者が何を手がかりに見ればよいかを授業内で共有できるよう、支援の言葉や提示の仕方を具体化し、実践を通して洗練させていくことが課題となりました。

2. 看図アプローチ体験

今回のビジュアルテキストは、アート作品を用いました。



中島和弘氏の作品「移行」

この写真を「ものこと原理」の手順に沿って読み解きました。またこの作品は、自由に動かして鑑賞することも可能です。そこで、織田が画廊

で撮影してきた動画をビジュアルテキストにした鑑賞会を行いました。

静止画読み解きの後、動画を視聴すると、同じ作品が「止まっているもの」から「ゆるやかに流れているもの」へと見え方が変わり、テーマも「閉じ込め」から「流れ」へ、また「守る」から「癒される(砂のオルゴール)」「自然の恵み」へと変化していました。静止画では“価値”や“保存”として語っていた「大きさ」が、動画視聴後には“ゆっくり味わう時間”として語られるようになった点が印象的でした。

ふり返りでは、「問い合わせが変わると、同じものでも見え方が変わる」といった意見が複数ありました。あわせて「理由が“根拠のある推論”になる」「正解が限定されないことで、違いを受け止め合いやすい」といった学びが共有されました。加えて、「予想を気持ちよく裏切るようなビジュアルテキストが、対話を深める」という声もあり、ビジュアルテキストの“意外性”が話し合いを前に進めることも体験を通して確認されました。

作品および動画をビジュアルテキストとして活用することをご快諾いただきました中島和弘先生に心より御礼申し上げます。

(文責：織田千賀子)

II. 足寄町立螺湾小学校看図アプローチ研究会報告



足寄町立螺湾小学校では「主体的に深く学ぶ児童の育成～『協働(協同)と創造』を生み出す授業の追求～」をテーマに掲げて全校研修を進めています。螺湾小学校「研究の概要」には「看図アプローチを取り入れた学習方法の開発」が目標として掲げられています。螺湾小学校では、この目標を達成するために看図アプローチ全校研究会が開催されました(2025.12.23開催)。そのプログラムは次のようなものです。なお、螺湾小学校は小規模複式校であるため、各公開授業は2学年合同の「異学年同内容」で実施されました。

3・4限目 「言語活動を活性化する看図アプローチ授業」(中学年)

授業者：鹿内信善・石田ゆき
(ティームティーチング)

5限目 「ユニバーサルデザインの理解を深める看図アプローチ授業」(高学年)

授業者：森岡達昭(螺湾小学校教員・全国看図アプローチ研究会会員)

6限目 「螺湾小学校全教員を対象とした看図アプローチワークショップ」

ファシリテーター：鹿内信善

◎3・4限目 中学年(3・4年生/児童2名)の授業

『全国看図アプローチ研究会研究誌』掲載の田中岬実践をベースにした「きゅうちゃんカルタづくり」の授業を行いました。田中岬実践の結果を追認する楽しく活発な言語活動の授業になりました。

JASCE



きゅううちゃんカルタ制作の様子



活発な協同学習の様子



カルタ大会の様子

◎5限目 高学年(5・6年生／各々5名・1名／児童6名)の授業

テーマは「ユニバーサルデザインの理解」です。ビジュアルテキストは授業者の森岡先生が自作したものです。鹿内(2015)と同様の展開で授業が行われました。鹿内(2015)の授業では学習者は大学生でした。森岡先生の小学生を対象とした授業でも、鹿内(2015)と同等の学習者反応が得られました。看図アプローチの汎用性の高さを追認する貴重な実践となりました。



授業者の森岡先生と児童たち

◎6限目 螺湾小学校全教員を対象とした看図アプローチワークショップ

6限目は螺湾小学校全教員を対象とした看図アプローチワークショップを行いました。小規模校ですので、参加者は校長先生・教頭先生を含めて6名です。人数こそ少ないものの、贅沢で豊かな研究会になりました。内容は、「ものこと原理」等の看図アプローチ基礎理論および最近開発した「解剖学」の看図アプローチ授業です。

質疑応答タイムでは、道徳教育への応用法についての質問がありました。これに対しては「“対立”があり、かつ“多様な読み解き”を許容する」きゅううちゃん絵図を用い、わかりやすい回答が示されました。道徳というと善・悪や正解・不正解のどちらかを選択しなければならないと思われるがちですが、どちらの立場・視点からも見ていく力を育成することが肝心です。この道徳授業に関する質疑応答もワークショップ形式で行われました。

なお、螺湾は巨大なフキ「ラワンブキ」が有名なところです。

(文責: 石田ゆき)



「AI×教育」オンライン研究会(全3回)開催のお知らせ

生成AIの急速な普及は、教育の現場にさまざまな期待と戸惑いをもたらしています。本研究会では、AIを単なる「便利な道具」や「脅威」として捉えるのではなく、教育における思考・学び・関係性を問い合わせ直す視点から、段階的に議論を深めています。

第1回(3/9)は、SEの鈴木里子さんを講師に迎え、AIの仕組みやできること・できないことについて概説し、共通知識の土台をつくります。第2回(5/11)は、AIに対する素朴な疑問や不安を参加者同士で言語化し、「問い合わせ」として捉え直します。第3回(7/13)では、教育実践や制度との関係からAI活用の課題を整理し、構造的に考察します。

これら3回の議論を踏まえ、9月の学会では、AIを活用した協同教育のあり方を具体的に検討するワークショップを予定しています。教育・研究分野を問わず、AIと教育のこれからを共に考えたい方のご参加をお待ちしています。

参加資格: 日本協同教育学会 会員 または 会員による紹介
参加費: 無料

開催方法: オンライン(zoom)
主催: 鮫島輝美(関西医科大学)、本間典子(国立看護大学校)

問合せ先: sameteru@gmail.com

詳細は、参加申込URLをご参照ください

<https://forms.gle/tARzGECWveliFaSd6>

